

～前橋空襲を語り継ぐ場～

前橋空襲の爆撃照準点(中心点)

【前橋空襲を語り継ぐ爆撃照準点】

前橋市がアメリカ空軍 B29 の空襲を受けたのは、アジア・太平洋戦争終結の直前、昭和20年(1945)8月5日午後10時28分から6日午前0時8分であった。

爆撃照準点をめがけ約18万発もの焼夷弾が投下され、この1回の空襲により市街中心部約80%が焦土と化し、約600人の死者を出した。

右の図は、前橋空襲に使用された「リト・モザイク(爆撃中心点参照用集成図)」である。前橋空襲で指定されたとされる「102072」という数字は、最初の3桁が横座標、次の3桁が縦座標を表わす。

実際に爆撃地点を指定する際のルールによれば、「いくつもの火災区画で同時に火災が発生するように、なるべく人工あるいは天然の防火帯が交わる地点で、明瞭に確認できる特徴のある点」とされ、通常は道路の交差点であった。

このルールに従い縦横の交点を求めると、市道02-390と中央通りの交差点、すなわち、丁字の交差点(丁字路)だと推定できる(工藤洋三氏の見解より)。



リト・モザイク(爆撃中心点参照用集成図)
提供：工藤洋三



米国国立公文書館



ふりがな
Scan and
select
language



設置：令和6年11月 前橋市(前橋市歴史的風致維持向上計画・ヒストリックランドマーク整備事業)

※この事業は、「(一財)ぐんま食と歴史文化財団」からの支援を受けて実施しています。